

[第889回ゼミ報告] 2024年11月8日号

トランプの札は「良」と出るか、「否」と出るか。アメリカン・ファーストで「排外主義」へ、しかし元は「移民」の国。さて世界はどうなるのか…  
10月23日のゼミは、佐々木隆治『資本論第3巻』の「第3章 資本主義的生産の進展における一般的利潤率の傾向的低下の法則」を高田の報告で行いました。資本主義的生産の進展という時間的要素で、一般的利潤率を低下させる等の現象、資本の有機的構成の高度化で一般的利潤率が低下、一部の研究者はこの法則を軽視。生産性の増大と利潤率の低下との直観、低下でなぜ生産力の増加させるのか。資本家の観念と行動、法則貫徹。社会的生産力の発展と有機的構成の高度化。その高度化で一般的利潤率は低下する。価値として対象化された過去の労働。死んだ労働による生きた労働の支配：より多くの不変資本価値を必要とする。利潤率の低下のなか利潤量の増大という一見すると矛盾する現象：資本主義的生産様式の本性から必然的に生起する現象。有機的高度化と資本蓄積の同時進行。生産力の発展が資本蓄積を生み、利潤の絶対量は増大。低下に反作用する諸原因：労働搾取度の増強、労賃の価値以下への引下げ、生産手段の低廉化、相対的過剰人口、外国貿易、独占的地位。資本主義的生産の真の制限は資本そのもの。物象化と新たな発展。討論では、この法則に否定的とは不破哲三による、それに対し実証的に肯定する研究成果がある。宇野派、欧米はどうか。もともとマルクスの草稿では1章構成だが、エンゲルスが3つの章に分けてしまった。現代の搾取度はどの程度か、日本200%程度か。設備投資が増えず海外投資へ、内部留保・だが賃金は横ばい。現実の統計はどうか、剰余価値率は上昇、利潤率は下がる。新しい技術力が劣り、非正規雇用増加。ユニクロは海外生産、日本の競争力が低下、電機産業の技術者が海外へ。オイルショックはなんとか乗り切ったが、バブルでは燃え上がり危機意識がなかった。マルクスの時代に利潤率が下がったのは、実際イギリスであったこと。会場参加は小野さん・川口さん・高田、オンライン参加は斎藤さん・竹内さん・後藤さん・田中(興)さんの合計7名の参加でした。

\* 11月13日(第2週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 846 6407 0377 パスコード: 844590

\* 『マルクス解体』は12月ゼミで終わる予定です。次のテキスト、取り上げてほしい本など、いくつか候補の推薦を願います。

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

11月13日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
斎藤幸平『マルクス解体』6章 Marx と脱成長コミュ… 報告：川口さん

11月27日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
佐々木『資本論第3巻』第4章 商品資本・貨幣資本…転化 竹内さん

12月11日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
斎藤幸平『マルクス解体』7章 脱成長コミュニズムと富… 報告者未定  
その後 12/25 [アイクルの部屋] 2025/01/08, 01/22, 2/12, 2/26

◇第三学科事務局/高田好章：ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755  
HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso